## Yukinori YAMAMOTO\*: A new species of *Diachea* (Myxomycetes) with clustered spores

山本幸憲\*: 着合胞子を持つ変形菌の1新種

The late Mr. Shiro Koaze was a vigorous collector of the Myxomycetes. His large collection is now deposited in the National Science Museum, Tsukuba. I have been interested in the scientific names (nomina nuda) left by him. Recently I could examine two specimens labeled "Diachea syncarpa Koaze, sp. nov." on loan from Mr. Hiromitsu Hagiwara of the National Science Museum, Tsukuba. As a result, I think the specimens represent a species new to science.

Diachea koazei Y. Yamamoto, sp. nov. (Fig. 1),

Sporangia dense gregaria, stipitata vel subsessilia, metallico-caerulea vel purpureo-iridescentia vel aenea, cylindrica, apicibus rotundatis, usque ad 1 mm alta et usque ad 0.2 mm diam. Stipes usque ad 1/3 altitudinis totae metiens vel fere absens, ochraceo-brunneus, interdum albus et calcareus. Hypothallus membranaceus, argentinus, aliquantus inconspicuus, sed interdum albus et calcareus, conspicuus. Columella crassa, irregulariter cylindrica, alba, calcarea, paene apicem sporangii attingens. Peridium iridescens, persistens, membranaceum, saepe post dehiscentiam collum circum basim sporangii reliquens. Capillitium crassum, brunneum luce transmissa, ab omnibus partibus columellae exoriens, anastomosans, ramosum interdum cum pallidis extremitatibus et irregularibus expansionibus. Sporae in fasciculis ex 3-18 sporis compositis, piriformes, turbinatae, vel subglobosae, circa 8-10×8-10  $\mu$ m, extra spinulosae, numero spinularum gradatim versus partem angustatam diminuente, per saturam paene atrae, luce transmissa brunneae. Plasmodium ignotum.

Specimina: Shiro Koaze 2159, hab. in cortice arboris putrescentis, Mons Takakuma, Prov. Osumi (Kagoshima Pref.) die 23 mensis august, anno 1935—holotypus in TNS; Masaaki Koaze 1734, hab. ibidem, die 24 mensis august, anno 1935, in TNS.

This species resembles Diachea leucopodia (Bull.) Rost. and D. aurantipes

<sup>\* 1010-53,</sup> Ohtsu-ko, Kochi-shi, 781-51, 高知市大津甲 1010-53,

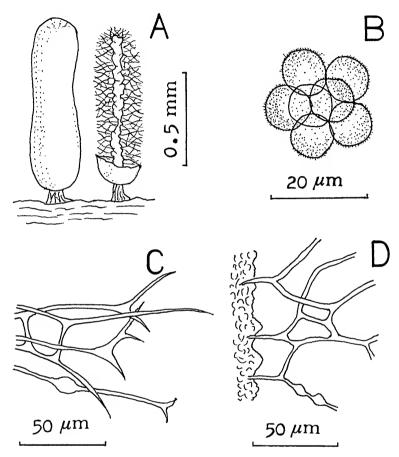


Fig. 1. Diachea koazei. A: Two sporangia. Right. A dehiscent sporangium showing the columella and capillitium. B: A cluster of spores. C: Apical part of the capillitium. D: Basal part of the capillitium, showing the attachment to the columella.

Nann.-Brem. et Y. Yamamoto, but differs in the clustered spores.

私は以前から、故小畔四郎氏の残した多くの変形菌の裸名に興味をもっていた。このたび、国立科学博物館筑波実験植物園の萩原博光氏を通じて、「Diachea syncarpa Koaze」のラベルが貼付された変形菌の二標本を借用することができた。 Diachea syncarpa

Koaze (nom. nud.) については、小畔氏が「鹿児島県産新種稀種粘菌略説」(1935年11 月)中に、日本語で概要を誌しているが、正式記載されることは無かった。 借用標本の 調査の結果、着合胞子をもつ点で、Diachea の中でも特異な新種と判断し、小畔氏の変 形菌に関する業績を記念して、 Diachea koazei と命名して記載を行なった。標本借用 に際し、お世話頂いた萩原氏にお礼申し上げる。

□呉 征鎰(主編),中国雲南人民出版社(編集): **雲南の植物 I** 482 pp., II 530 pp., III 522 pp. 1986. 日本放送出版協会,東京、¥75,000(分売不可).中国の植物はわれわれ 日本の分類学研究者にとって垂涎の的であり、手続き上の困難を冒して調査に訪れる者 が激増している。本書は中国でも最も豊富なフロラを誇る雲南の植物図鑑で、総計1133 種が収録されている。各巻の前半はカラー写真、後半は種ごとのくわしい記相文、分布、 用途が、玉川大学許田倉園氏の訳による和文で記されている。カラー写真の見事さと共 に、和文であるために使い勝手は格段に良い。植物華名とともに和名のあるものはそれ を,ないものは中国名の日本式読みが付されている。分布については本文に添えた地図 に産地が番号で示されていて、地名の位置が一目でわかるから便利である。なお総索引 は第I巻にある。各巻頭にはそれぞれ原寛、北村四郎、津山尚の諸氏が日本語編集協力 者として序文をよせている。いずれもヒマラヤ植物研究の先達で,将来も広い範囲の研 究者の日華協力を期待しての配慮と見受けられる。 (金井弘夫)

□池上義信(監修) • 石沢 進(編集): 新潟県植物分布図集第7集 458 pp. 1986. 植物同 好じねんじょ会(小千谷市山寺 関省吾方)、至6,000(送料 500円)、あらたに 100 種の 分布図とその準拠標本データが示された。あいかわらずみごとな出来である。アオキウ ドンコ病の分布がアオキよりはナガバジャノヒゲの分布に類似しているという指摘など は、これまでの蓄積があってはじめて気付かれたことだろう。前集までの補遺は適当な 時期にオムニバスの分布図として示してくれると有難い。わが国の書籍には奥付がある ことが、書誌情報のよりどころとして外国の本にくらべてすぐれている点なので、頒価 をふくめて奥付を常につけてもらいたい。 (金井弘夫)

□土田勝義(編):長野県の植生 277 pp. 1987. 信濃毎日新聞社,長野.¥2,500. 長野 県は植生調査がゆきとどいて行われており、それをふまえて植物図鑑と同じ発想の植生 図鑑がつくられた。 編者のほか松田行雄, 山崎惇, 横内正人の三氏の執筆になる。「自 然の事物はただ名前を知ればそれで終りではない。 それはあくまで始まりである。」 と いう序文に賛成する。A5版でハンディを目的としているが、全アート紙、ほとんど毎 **頁カラー写真の豪華版である。県全体の概況から主要植生単位にわたり、かたり細かく** 区切って解説している。 (金井弘夫)